



県民参加型調査「ふくおか生きもの見つけ隊」

－「いきものログ」を活用した身近な生きもの調査－



田中裕美・大石弘孝（福岡県環境部自然環境課）・石間妙子・金子洋平・中島淳・須田隆一（福岡県保健環境研究所）

★ 背景と目的

- 2013年3月 福岡県生物多様性戦略を策定
- 行動計画において本事業を施策として掲上



- 2014年7月「ふくおか生きもの見つけ隊」の調査開始
- 目的**
- ・生物多様性を理解する契機とする
 - ・将来的に調査結果を生物多様性保全の基礎資料とする

★ 調査の流れ

調査方法の検討

体制

- 実施主体：環境部自然環境課・保健環境研究所環境生物課
- 検討会議：環境県民会議 生きもの調査分科会

調査方法の決定

- 県が選定する調査対象種を、参加者各人が探して観察をする
- 環境省「いきものログ」の団体調査用報告ページを活用
- 調査は2014年7月1日開始、9月30日までの結果を速報に掲載

調査対象種の決定

- 夏休みを中心に、都市近郊で見つけやすい在来種と外来種
- 種の判別が比較的容易な15種

	在来種	外来種	合計	
植物	ネムノキ サイヨウシャジン	オオキンケイギク ホテイアオイ	4種	
動物	カワセミ ツバメ ニホンヤモリ ハンミョウ クマゼミ キアゲハ(幼虫) カブトムシ サワガニ	ウシガエル ミシシビアカミミガメ アメリカザリガニ	11種	

参加者の募集(6月～)

- チラシの配布
小学校(高学年全員に配布)、環境保全団体、博物館・図書館などの公的施設、コンビニエンスストア
- 新聞および県広報誌への掲載
- 県公報番組への出演
- 子ども会連合会などの団体へ呼びかけ
- 調査モデル校の募集



参加者の支援

「いきものログ」の操作マニュアルを配布

「調査用生きものガイド」を配布

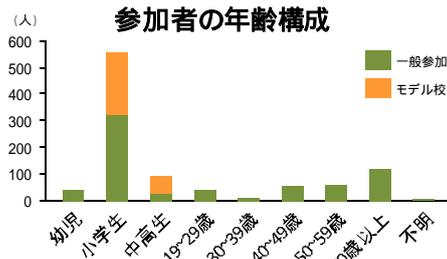
- 調査対象種の生態、見分け方、調査方法、注意点などを記載
- A5判24ページ



★ 調査の途中結果

参加者数

- 1,000人(2014年9月30日時点)
- 小学校高学年全員にチラシを配布した効果があり、小学生が半数以上を占める
- 次いで、60歳以上の参加者が約1割を占める
- 調査モデル校は計8校(小学校2校、高等学校6校)で計297人(小学校231人、高等学校66人)



報告件数

- 報告件数は1,779件(2014年9月30日時点)
- 分布地図は、「いきものログ」で報告されたもののうち、2次メッシュ(約10km四方)以上の詳細な位置精度で報告されたものを示す

<p>👑 1位 ネムノキ 1,114件</p>	<p>5位 キアゲハ 45件</p>
<p>👑 2位 クマゼミ 199件</p>	<p>6位 オオキンケイギク 44件</p>
<p>👑 3位 ツバメ 107件</p>	<p>6位 サワガニ 44件</p>
<p>👑 4位 ミシシビアカミミガメ 61件</p>	<p>8位 ニホンヤモリ 36件</p> <p>9位 ハンミョウ 35件</p> <p>10位 カワセミ 18件</p> <p>10位 アメリカザリガニ 18件</p> <p>12位 サイヨウシャジン 17件</p> <p>13位 ウシガエル 16件</p> <p>14位 カブトムシ 15件</p> <p>15位 ホテイアオイ 10件</p>

★ 来年度以降の課題

- 報告内容についての課題
 - 参加者一人当たりの報告数の個人差が大きい
 - 調査対象種によって報告数が大きく異なる
 - 報告された情報によって位置精度および種の識別精度が異なる
- 参加者が楽しく観察できる工夫
 - 興味・関心を持つような調査対象種の選定
 - 県と参加者とのつながり、県からの情報発信方法